

## 江戸時代後期の洒落本の形容詞

村田 菜穂子\*<sup>1</sup> 前川 武\*<sup>2</sup>Adjectives in Novellas about Life in Red-light Districts  
in the Late Edo Period.Nahoko Murata\*<sup>1</sup> Takeshi Maekawa\*<sup>2</sup>

## キーワード

形容詞、江戸時代、洒落本、語彙表、語彙史

## I はじめに

これまで、上代資料・八代集・中古散文作品から採取された形容詞について、それぞれの形容詞がどの資料でどのくらい使用されているかを対照語彙表の形にまとめ、その一方で、各形容詞について語構成を分析し、その結果を拙著『形容詞・形容動詞の語彙論的研究』<sup>(注1)</sup>において前稿①「古代語形容詞の語構成」として公表した。

その後、調査対象を軍記物語・今昔物語集から狂言・キリシタン資料、擬古物語、中世の日記・紀行文、中世の随筆・説話集へと拡大し、これらから採取された形容詞の対照語彙表<sup>(注2)</sup>の公表を続けてきた。

これと並行して軍記物語・今昔物語集の形容詞の語構成についての分析結果をまとめ、「古代語形容詞の語構成」を増補する形とし、同時に、「古代語形容詞の語構成」公表後に気づいた見落としや誤りを修正して、上代から中世に至る資料から採取した形容詞の語構成の分析結果を前稿②「改訂・増補 古代語形容詞の語構成－上代～中世編－」<sup>(注3)</sup>として改めて公表し直した。続いて、狂言・キリシタン資料、擬古物語および中世の日記・紀行文、芭蕉・蕪村・一茶の俳諧の形容詞の語構成についての分析結果を公表した。<sup>(注4)</sup>

本稿では、平成30年3月に『日本語歴史コーパス 江戸時代編 I 洒落本』として、江戸時代後期の洒落本30作品の形態論情報付きデータが公開されたことから、これらの洒落本全体の傾向を調査すべく、同コーパスを用いて、30作品をその舞台となった地域（大きく、大坂、京都、江戸）で分類し、舞台となった地域ごとにどのような形容詞がどれくらい使用されているかが一覧できる形式にて対照語彙表を作成した。

\*1 むらた なほこ：大阪国際大学国際教養学部教授（2018.7.6受理）

\*2 まえかわ たけし：大阪国際大学短期大学部教授

## Ⅱ 凡例

### [1] 見出し語の配列

歴史的仮名遣いにより五十音順に配列する。

### [2] 見出し語形の統一

意味の違いに関係しない読み方・発音の違いは同一語とみなし合併して採る。同一語・別語の認定は『古語大事典』〔小学館〕・『日本国語大辞典』〔小学館〕に拠る。

①子音交替形または母音交替形

例：ねむたし⇔ねぶたし (m⇔b)

②撥音の表記に関わるもの

例：やごとなし⇔やむごとなし

③促音を挿入したもの

例：にっくし⇔にくし

④その他

例：ゆきがたし⇔いきがたし

### [3] 助詞・助動詞（補助動詞を含む）を介在させている語および接頭辞が付いた語の扱い

助詞・助動詞（補助動詞を含む）を介在させている語形、および接頭辞がついた語形は次のように扱った。

- (1) 助詞・助動詞（補助動詞を含む）を外した語形が存在する場合は、助詞・助動詞（補助動詞を含む）を外した語と合併して採る。

例…つきもなし→つきなし、きょくもなし→きょくなし等。

- (2) 助詞・助動詞（補助動詞を含む）を外した語形が存在しない場合は、助詞・助動詞（補助動詞を含む）を外した語形を仮の語形として設定し立てる。

例…せんかたなし→するかたなし等。

- (3) 接頭辞の付いた語の扱い

例…おなごりをし→なごりをし、ごもったいなし→もったいなし

のように、接頭辞を外した語形で採る。

### [4] 複合語の扱い

名詞+形容詞（例…よふかし・しふしんふかし）や動詞連用形+形容詞（例…をりがたし・はひりにくし）等は切り離さず複合的な単位として認め、一語として扱う方針によって形容詞を選出した。これは、形容詞の造語法として複合語の産出が新語形成の一端を担っている事実を重視したことに拠る。

### [5] 漢字

各形容詞の主な意味を表すために適宜振ったもの。

### [6] 活用

各見出し語がそれぞれ何活用の形容詞であることを示したもの。

[7] 新出

江戸時代後期の洒落本にて初めて出現した形容詞がわかるように新出の語には「○」を記した。

[8] 地域ごとの出現数

各見出し語がそれぞれの地域を舞台とした作品で出現した数を示したもの。

[9] 既存の十二資料における出現状況

各見出し語がどの資料に使われているかを簡潔に示すべく、その見出し語が使われた資料に○を施した。

十二資料とは、【上代資料】【訓点資料】【八代集】【中古散文作品】【今昔物語集】【軍記物語】【擬古物語】【中世の随筆・説話集】【中世の日記・紀行文】【狂言】【キリシタン物】【俳諧】を指す。(表中では、下線部で示したもので表した)なお、各資料に含まれる作品は次のとおりである。

【上代資料】

『時代別国語大辞典上代編』に立項されている形容詞のうち、東歌・防人歌に使われている東国語方言の語や複合形容詞中にのみその存在が確認される語を除き、万葉集・古事記(仮名書き部分)・日本書紀(同)・風土記(同)・続日本紀宣命・祝詞に用例のあるものを上代形容詞として認めた。

【訓点資料】

『興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点』『神田本白氏文集卷第三・四』『高山寺本古往来』

【八代集】

『古今集』『後撰集』『拾遺集』『後拾遺集』『金葉集』『詞花集』『千載集』『新古今集』

【中古散文作品】

『竹取物語』『土佐日記』『伊勢物語』『平中物語』『大和物語』『多武峯少将物語』『篁物語』『宇津保物語』『蜻蛉日記』『落窪物語』『和泉式部日記』『枕草子』『源氏物語』『紫式部日記』『堤中納言物語』『夜の寝覚』『浜松中納言物語』『更級日記』『狭衣物語』『大鏡』『讃岐典侍日記』『とりかへばや物語』

【今昔物語集】

『今昔物語集』

【軍記物語】

『保元物語』『平治物語』『平家物語』

【擬古物語】

『松浦宮物語』『山路の露』『風に紅葉』『木幡のしぐれ』

【中世の随筆・説話集】

『徒然草』『方丈記』『発心集』『選集抄』『十訓抄』

【中世の日記・紀行文】

『海道記』『東関紀行』『うた、ね』『とはずがたり』『竹むきが記』

【狂言】

『天正狂言本』『虎明本狂言集』『虎清本狂言集』『狂言六義』『狂言記』

【キリシタン資料】

『天草本平家物語』『天草版伊曾保物語』『天草版金句集』『懺悔録』

【俳諧】

『芭蕉・蕪村発句総索引 本文索引編』<sup>(注4)</sup> 所収の発句

『一茶全集 第1巻 発句』<sup>(注5)</sup> 所収の発句

Ⅲ 調査に際して使用した資料

国立国語研究所 (2018) 『日本語歴史コーパス 江戸時代編 I 洒落本』

[http://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/chj/edo.html](http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/chj/edo.html) (2018年7月5日確認)

同コーパスに収録されている作品は以下のとおりである。

舞台：大坂

『聖遊廓』『月花余情』『新月花余情』『陽台遺編・妯娌秘言』『異本郭中奇譚』

『短華薬葉』『北華通情』『南遊記』『粋の曙(当世粋の曙)』『色深狹睡夢』

舞台：京都

『原柳巷花語』『無論里問答』『風流裸人形』『阿蘭陀鏡(青楼阿蘭陀鏡)』

『昇平楽』『嘘之川(当世嘘之川)』『竊潜妻(滑稽醉言竊潜妻)』

『誰が面影(浮世滑稽誰が面影)』『箱まくら(河東方言箱まくら)』『興斗月』

舞台：江戸

『郭中奇譚』『俠者方言』『南閨雑話』『甲駅新話』『当世左様候』『深川新話』『総籬』

『仕懸文庫』『花街鑑(玉菊全伝花街鑑)』『花街寿々女(廓鑑余興花街寿々女)』

【付記】

本稿は、日本学術振興会平成28-30年科学研究費補助金(基盤研究(C)、課題番号16K02746)による研究成果の一部である。

注1 [2005・11和泉書院]。元は、『大阪国際女子大学紀要』27-1 [2001・9]。拙著には、「古代語形容詞の語構成」(別表一)のほか、「八代集の形容詞対照語彙表」(別表二)「中古散文作品の形容詞対照語彙表」(別表二)、「訓点資料の形容詞の語構成」(参考資料)を載せている。

注2 ①「軍記物語の形容詞対照語彙表」(『大阪国際大学紀要国際研究論叢』21-3 [2008・3])、②「今昔物語集の形容詞対照語彙表一天竺・震旦部一」(『大阪国際大学紀要国際研究論叢』22-3 [2009・3])、③「今昔物語集の形容詞対照語彙表一本朝仏法部一」(『大阪国際大学紀要国際研究論叢』23-1 [2009・10])、④「今昔物語集の形容詞対照語彙表一本朝世俗部一」(『大阪国際大学紀要国際研究論叢』23-2 [2010・1])、⑤「『形容詞対照語彙表』補遺」(『大阪国際大学紀

江戸時代後期の洒落本の形容詞

要国際研究論叢』23-2 [2010・1])、⑥「改訂・増補 古代語形容詞逆引き対照語彙表—上代～中世編—(前編)」(『大阪国際大学紀要国際研究論叢』24-3 [2011・3])、⑦「改訂・増補 古代語形容詞逆引き対照語彙表—上代～中世編—(後編)」(『大阪国際大学紀要国際研究論叢』25-1 [2011・10])、⑧「『時代別国語大辞典 室町時代編』の形容詞」(『大阪国際大学紀要国際研究論叢』25-2 [2012・1])、⑨「『邦訳 日葡辞書』の形容詞」(『大阪国際大学紀要国際研究論叢』26-1 [2012・10])、⑩「狂言の形容詞」(『大阪国際大学紀要国際研究論叢』27-2 [2014・1])、⑪「キリシタン資料の形容詞」(『大阪国際大学紀要国際研究論叢』27-3 [2014・3]) ⑫「擬古物語の形容詞」(『大阪国際大学紀要国際研究論叢』29-1 [2015・10])、⑬「中世の日記・紀行文の形容詞」(『大阪国際大学紀要国際研究論叢』29-2 [2016・1])、⑭「中世の随筆・説話集の形容詞」(『大阪国際大学紀要国際研究論叢』30-3 [2017・3])

注3 『帝塚山学院大学日本文学研究』41 [2010・2]

注4 ①「狂言・キリシタン資料の形容詞の語構成」(『大阪国際大学紀要国際研究論叢』29-1 [2015・10])、②「擬古物語および中世の日記・紀行文の形容詞の語構成」(『大阪国際大学紀要国際研究論叢』29-3 [2016・3])、③「芭蕉・蕪村・一茶の俳諧の形容詞の語構成」(『大阪国際大学紀要国際研究論叢』31-1 [2017・10])

注5 道本武彦・谷地快一著 [1983・1、角川書店]

注6 信濃教育会編 [1979・8、信濃毎日新聞社]

国際研究論叢

No.	見出し語	漢字	活用	新出	大阪	京都	江戸	上代	訓点	八代	散文	今昔	軍記	擬古	随筆・ 説話	日記・ 紀行	狂言	キリ	俳諧
1	あいらし	愛	シク	○		1													
2	あかし	赤	ク		1	3	8		○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
3	あかし	明	ク		3			○		○	○	○	○		○	○	○	○	○
4	あかるし	明	ク	1															○
5	あさぐろし	浅黒	ク	○	2	2													
6	あさし	浅	ク		1	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	あさまし	浅	シク			2	1			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	あし	悪	シク		2	8	5	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	あじなし	味無	ク	○		1													○
10	あせくさし	汗臭	ク				1												○
11	あだし	他	シク	○	1														
12	あだじけなし		ク	○			1												
13	あたたかし	温	ク	○		2	1												
14	あたらし	新	シク		2	9	4		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	あぢきなし	味気無	ク		1					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16	あつかまし	厚	シク		6		4												○
17	あつし	厚・敦	ク		3	6	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	あつし	磐・熱	ク		11	8	11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19	あぶなし	危	ク		3	5	5												○
20	あぶらくさし	油臭	ク	○		1													○
21	あまし	甘	ク		5	2	3		○										○
22	あまったるし	甘	シク	○	1														○
23	あやし	靈異・奇・怪	シク		1	7		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24	あやふし	危	ク		2	2	2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
25	あられなし	荒気	ク				1												
26	あらし	荒・疎	ク		1	1	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
27	ありがたし	有難	ク		19	22	32	○											○
28	あわたたし	慌	シク		1														○
29	あをし	青	ク		1	3	3	○	○										○
30	あをじろし	青白	ク	○		1													○
31	いかし	蔽	シク		14	7	3	○											○
32	いかつし	蔽	ク	○	1														○
33	いかめし	蔽	シク			1													○
34	いげちなし		ク	○	1														○

## 江戸時代後期の洒落本の形容詞

No.	見出し語	漢字	活用	新出	大阪	京都	江戸	上代	訓点	八代	散文	今昔	軍記	擬古	随筆・ 説話	日記・ 紀行	狂言	キリ	俳諧
35	いし	美	シク		1	1	1						○		○		○		
36	いそがし	忙	シク			4	7				○			○			○		○
37	いそがはし	忙	シク		1				○				○		○		○		
38	いたし	痛・甚	ク		6	2	10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
39	いたはし	労	シク		1			○	○				○		○		○		
40	いちはやし	逸早	ク		1		1				○								
41	いちぢらし	意地	シク				2												○
42	いづくし	敵	シク				1	○	○					○					
43	いとけなし	幼	ク			1	1		○	○			○						
44	いととし	愛	シク		2	4	2				○						○		○
45	いとしらし	愛	シク	○		1													
46	いとほし	愛・愛	シク			2		○			○						○		
47	いふかし	不審	シク		2	1		○	○										
48	いまいまし	忌忌	シク		6		11												○
49	いやし	賤・卑	シク		2	3	5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50	いやらし	嫌	シク	○	4	4	1												○
51	うし	憂	ク		4	4	6	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
52	うすし	薄	ク		2	12	5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
53	うたがはし	疑	シク			2		○	○	○									
54	うたぐりぶかし	疑深	ク	○			1												
55	うつくし	愛・美	シク		7	12	17	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
56	うっとし	鬱陶	シク		1		1												○
57	うとうとし	疎疎	シク		1						○		○	○	○			○	○
58	うとし	疎	ク		2	3	2		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
59	うとまし	疎	シク			1				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
60	うひうひし	初初	シク		1						○								
61	うまし	旨・甘・美・味	ク		9	3	9	○				○					○		○
62	うやうやし	恭	シク			1	1	○					○						
63	うらめし	恨	シク		1	1	2	○			○						○	○	○
64	うらやまし	羨	シク		6	2	5		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
65	うらわかし	若	ク			1		○			○								
66	うるさし	煩	ク			4	2				○						○	○	○
67	うるはし	麗・美	シク		1	3	2	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
68	うれし	嬉・歎	シク		33	29	51	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

No.	見出し語	漢字	活用	新出	大阪	京都	江戸	上代	訓点	八代	散文	今昔	軍記	擬古	隨筆・ 説話	日記・ 紀行	狂言	キリ	俳諧
69	えらし	偉	ク	○	34	28	1												
70	おおざっぱし		ク	○		1													
71	おおくゆかし		シク			1								○					
72	おぞし	遅・鈍	ク		8	20	16	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
73	おぞし	悍	ク			1					○							○	
74	おぞろし	恐	シク			5	9			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
75	おつかなし		ク	○															
76	おとどし		シク	○		1													
77	おとなし	大人	ク		2	3	12				○			○			○	○	
78	おなじ	同	シク		1	2		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
79	おびたし	夥	シク			1	3				○	○	○				○	○	
80	おぼえなし	覚無	ク				2				○			○					
81	おほきし	大	ク		3	5	6				○						○	○	○
82	おほけなし		ク			1					○	○	○						
83	おほし	多・大	ク		9	18	4	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
84	おほし	思	シク		1		1				○	○	○	○	○	○	○	○	○
85	おほつかなし	覚束無	ク			1		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
86	おもおもし	重重	シク			1					○								
87	おもくるし	重苦	シク	○	1														
88	おもし	重	ク		3	2	4	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
89	おもしろし	面白	ク		22	34	34	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
90	おもたし	重	ク			1	1				○						○	○	○
91	おもはし	思	シク			1					○	○	○	○	○	○	○	○	○
92	おもひなし	思無	ク		2						○								
93	およびなし	及無	ク		2						○								
94	おろかなし	愚無	ク	○															
95	かうばし	香	シク		1		1		○							○	○	○	○
96	かかりがまし	掛	シク	○	1														
97	かぎりなし	限無	ク		2														
98	かしこし	恐・畏・賢	ク		2	4	3	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
99	かしまし	器	シク		2		2				○								
100	かたくるし	堅苦	シク	○	3		1												
101	かたし	固・堅	ク		12	7	8	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
102	かたし	難	ク		2	1	2	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○



## 江戸時代後期の洒落本の形容詞

No.	見出し語	漢字	活用	新出	大阪	京都	江戸	上代	訓点	八代	散文	今昔	軍記	擬古	隨筆・ 説話	日記・ 紀行	狂言	キリ	俳諧
103	かたじけなし	辱・忝	ク		2	8	4	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	
104	かなし	悲・哀・愛	シク		3	5	29	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
105	かはゆし	可愛	ク		7	8	15				○	○		○	○	○	○		○
106	かはゆらし	可愛	シク		10	3	5												○
107	かひなし	甲斐無	ク				1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
108	かまびすし	喧・器	ク		1				○										○
109	かゆし	癩・癩	ク		1			○											○
110	からし	辛・鹹・酷	ク		1		1	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
111	かるし	軽	ク		2		2	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
112	きぎぐるし	閉苦	シク			1					○								○
113	きたなし	汚穢・濁・穢	ク			5	2	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
114	きつし		ク		41	11	37												○
115	きなくさし	臭	ク				1												○
116	きはづかし	気恥	シク	○			1												○
117	きはまりなし	極無	ク				1		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
118	きびし	厳・密	シク		1	5	1		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
119	きぶし		ク	○	1														○
120	きよし	清	ク		1	1	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
121	きよときよし		シク	○		1													○
122	きらきらし	端正	シク			1		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
123	くさし	臭	ク			2	4		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
124	くすぐったし	揶	ク	○			1												○
125	くだくだし		シク				1		○		○								○
126	くちひろし	口広	ク	○			1												○
127	くちをし	口惜	シク				3				○	○	○	○	○	○	○	○	○
128	くどし		ク		6	1	1												○
129	くはし	妙・細・詳	シク		1		10	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
130	くまなし	隈無	ク		1					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
131	くもりなし	曇無	ク				4			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
132	くやし	悔	シク		1		3	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
133	くらし	暗	ク		6	10	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
134	くるし	苦	シク		1	1	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
135	くろし	黒	ク		2	6	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
136	けうとし	気疎	ク			7					○	○	○	○	○	○	○	○	○

No.	見出し語	漢字	活用	新出	大坂	京都	江戸	上代	訓点	八代	散文	今昔	軍記	擬古	随筆・ 説話	日記・ 紀行	狂言	キリ	俳諧
137	けがらはし	汗穢・穢	シク		1		1	○	○			○		○	○	○			
138	けし	異・怪	シク		3	2	5	○			○	○	○	○	○	○		○	
139	けだかし	気高	ク				1				○	○	○	○	○	○	○	○	
140	ここちよし	心地良	ク			1					○	○	○	○	○	○		○	
141	こころぐるし	心苦	シク				1	○		○	○	○	○	○	○	○		○	
142	こころづよし	心強	ク							○	○	○	○	○	○	○		○	
143	こころなし	心無	ク			1		○		○	○	○	○	○	○	○		○	
144	こころにくし	心憎	ク				1				○	○	○	○	○	○		○	
145	こころほそし	心細	ク				5			○	○	○	○	○	○	○		○	
146	こころもとなし	心許無	ク			2	1			○	○	○	○	○	○	○		○	
147	こころやすし	心安	ク		1	9	10			○	○	○	○	○	○	○		○	
148	こころよし	快	ク		1	2	1		○		○	○	○	○	○	○		○	
149	こころわるし	心悪	ク			1													
150	こし	濃	ク			2	2			○	○	○	○	○	○	○		○	
151	こすし	狡	ク				1												
152	こそぐったし		ク	○			1												
153	こそばゆし		ク	○	1	1													
154	ごつし		ク	○	1														
155	ことおほし	言多	ク		1														
156	ことおほし	事多	ク			2													
157	ことしげし	言繁・事繁	ク				2			○	○	○	○	○	○	○			
158	ことなし	事無	ク				1	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
159	ことをかし	事	シク	○	1														
160	このまし	好	シク		1						○	○				○			○
161	こほし	強	ク			1	1	○			○	○	○	○	○	○		○	○
162	こほし	怖	ク		10	10	13												○
163	こひし	恋	シク		2	2	3	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○
164	こまかし	細	ク	○			2												○
165	こむつかし	小難	シク		1		2												
166	こわだかし	声高	ク	○		1													
167	さかくさし	酒臭	ク		2		2												
168	さがなし	不祥・悪	ク		1			○			○								○
169	さだめなし	定無	ク				1			○	○	○	○	○	○	○		○	○
170	さびし	寂・淋	シク		5	7	9	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○

## 江戸時代後期の洒落本の形容詞

No.	見出し語	漢字	活用	新出	大坂	京都	江戸	上代	訓点	八代	散文	今昔	軍記	擬古	隨筆・ 説話	日記・ 紀行	狂言	キリ	俳諧
171	さむし	寒	ク		16	11	23	○	○	○	○	○	○		○	○		○	
172	さもし	様悪	シク		1	3	1										○		
173	さわがし	騒	シク		2	2	2			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
174	しかたなし	仕方無	ク	○			1												
175	しがなし		ク	○			1												
176	しげし	繁・茂	ク		1	1	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
177	したし	親	シク		1	1	1		○						○	○	○	○	○
178	したたるし	古	ク	○		1													
179	したはし	慕	シク		2								○		○			○	○
180	しつこし	執固	ク		1	6	2										○		○
181	しどけなし		ク		1	1					○	○	○	○		○			
182	しなっこらし		シク	○	1														
183	しほらし	萎	シク			1	1										○		○
184	しみしっこし		ク	○	1														
185	しらし	白	ク			1					○								
186	しらじらし	白白	シク		1	1					○				○	○			
187	しりごそぼし	尻	ク	○		1													
188	しるし	知・灼・著	ク			1		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
189	じれったし	焦	ク	○		1	8												
190	しろし	白	ク		10	12	5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
191	しわし	吝	ク		1														
192	しんどし		ク	○	2	8													
193	すくなし	少	ク		2	6	7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
194	すげなし		ク		1						○	○	○	○	○	○	○	○	○
195	すごし	凄	ク		1		3			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
196	すざまし	凄	シク		7	1	1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
197	すし	酸	ク		3				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
198	すずし	冷・涼	シク		2		4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
199	すずどし	鋭	ク		1	1							○						
200	すぢなし	術無	ク		3	2	1				○	○			○				
201	すべなし	術無	ク			1		○		○	○	○	○	○	○	○			
202	ずるし	狡	ク	○			1												
203	ずるどし	鋭	ク	○	1														
204	せつなし	切	ク	○	1		6												

国際研究論叢

No.	見出し語	漢字	活用	新出	大阪	京都	江戸	上代	訓点	八代	散文	今昔	軍記	擬古	隨筆・ 説話	日記・ 紀行	狂言	キリ	俳諧
205	せはし	忙	シク		3	2	1										○		
206	せばし	狹	ク		2	1	1	○										○	○
207	せはしなし	忙	ク		3	1	3												○
208	せまくるし	狭苦	シク	○			1												
209	せんなし	詮無	ク				1												
210	そうぞうし	騒々	シク	○			3												
211	たかし	高	ク		23	23	17	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
212	たぐひなし	類無	ク				1			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
213	たけし	武・猛	ク		1			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
214	ただし	正	シク			1			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
215	たのし	楽	シク				1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
216	たのもし	頼	シク		1			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
217	たふとし	貴・尊	ク			2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
218	たやすし	輒・容易	ク				1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
219	たよりなし	便無	ク			2	2				○	○	○	○	○	○	○	○	○
220	たわいなし		ク				1												○
221	だんなし	大事無	ク		8	7													○
222	ちかし	近	ク		8	10	21	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
223	ちひさし	小	ク		6	5	11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
224	ちわし	恪	ク	○	1														○
225	つたなし	怯・拙	ク			3		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
226	つつがなし	無意・無事	ク				1	○											○
227	つまらなし		ク	○															○
228	つみぶかし	罪深	ク			3					○		○						○
229	つめたし	冷	ク		3	8	6				○	○	○				○		○
230	つゆけし	露	ク							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
231	つよし	強	ク		14	15	16	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
232	つらし	辛	ク		6	12	8	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
233	つれなし	無情	ク			1	2			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
234	てあらし	手荒	ク	○															○
235	でかし	大	ク																○
236	てふてふし	喋々	シク	○															○
237	とけしなし		ク	○		1													○
238	とし	利・敏・疾	ク		3	3	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 江戸時代後期の洒落本の形容詞

No.	見出し語	漢字	活用	新出	大阪	京都	江戸	上代	訓点	八代	散文	今昔	軍記	擬古	隨筆・ 説話	日記・ 紀行	狂言	キリ	俳諧
239	としわかし	年若	ク	○			1												
240	とほし	遠	ク		8	9	2	○	○									○	○
241	とほどほし	遠遠	シク		1	3	3	○										○	
242	とろくさし		ク	○	1														
243	とろし		ク	○		1													
244	ながし	長	ク		16	23	19	○	○	○								○	○
245	ながながし	長長	シク				1	○		○								○	
246	なごりをし	名残惜	シク				2						○					○	
247	なさげなし	情無	ク			3	1						○					○	
248	なし	無	ク		314	340	434	○	○				○					○	○
249	なだかし	名高	ク		4	1				○			○					○	
250	なつかし	懐	シク		3	1	1	○		○			○					○	○
251	なみだもろし	涙脆	ク				1											○	
252	なめし	無礼	ク			1		○											
253	ならびなし	並無・双無	ク				1		○				○					○	
254	なれなれし	馴馴	シク				1						○					○	
255	にがし	苦	ク		2		3						○					○	○
256	にぎはし	賑	シク		1														○
257	にくし	憎	ク		6	7	4	○		○			○					○	○
258	にくたらし	憎	シク	○	2														
259	にくらし	憎	シク				1								○				○
260	ぬくし	温	ク		1														○
261	ぬるし	温	ク		2	4	3	○		○								○	○
262	ねがはし	願	シク		1										○				
263	ねづよし	根強	ク	○			2												
264	ねぶたし	眠・睡	ク		7	4	1			○			○					○	○
265	ねむし	眠	ク				10											○	○
266	のこりおほし	残多	ク		1		1			○									○
267	のぶとし	野太	ク	○															
268	のろし	鈍	ク	○			2												
269	はかなし	果無・果敢無	ク				7			○			○					○	○
270	ばかばかし	馬鹿馬鹿	シク			2	3			○			○					○	○
271	はげし	激・烈	シク		1				○				○					○	○
272	はしたなし	端	ク				1						○					○	○

国際研究論叢

No.	見出し語	漢字	活用	新出	大阪	京都	江戸	上代	訓点	八代	散文	今昔	軍記	擬古	隨筆・ 説話	日記・ 紀行	狂言	キリ	俳諧
273	はづかし	恥	シク		10	7	11	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
274	はつはし	初初	シク	○			1												
275	はなはだし	甚	シク			2			○		○		○				○		
276	はなばなし	華々	シク	○			1												
277	はなめずらし	花珍	シク	○															
278	はばひろし	幅広	ク	○			1												
279	はもろし	歯脆	ク	○	1														
280	はやし	早・速	ク		47	46	73	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
281	ひきし	低	ク		3	5	4					○	○				○	○	○
282	ひさし	久	シク		18	14	42	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
283	ひだるし		ク			1											○	○	○
284	ひとし	等・斉	シク		7	3	4		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
285	ひどし	酷	ク	○	1	2	2												
286	ひもじ		シク	○		1	1												
287	ひろし	広	ク		3	3	5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
288	ふかし	深	ク		15	15	32	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
289	ふがひなし	腑甲斐無	ク			1											○		○
290	ふてらっこし		ク	○			1												
291	ふとし	太	ク		1		2	○	○		○	○	○		○		○		
292	ふるし	古・旧	ク		11	12	11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
293	ふるめかし	古	シク				1			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
294	ほし	欲	シク		1	14	3	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
295	ほぞし	細	ク		6	2	1	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
296	ほぞながし	細長	ク			1					○	○	○						○
297	ほどなし	程無	ク		2	8	10		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
298	ほどよし	程良	ク	○	1														
299	まさし	正	シク			1			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
300	まちかし	間近	ク			1		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
301	まちひさし	待久	シク	○			1												
302	まっくろし	真黒	ク	○	1														
303	まづし	貧・貧窮	シク		1			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
304	まづし	不味	シク	○							○	○	○	○	○	○	○	○	○
305	まばゆし	目映・眩	ク		1	1					○	○	○	○	○	○	○	○	○
306	まめめし	実実	シク				1				○	○	○	○	○	○	○	○	○

江戸時代後期の洒落本の形容詞

No.	見出し語	漢字	活用	新出	大阪	京都	江戸	上代	訓点	八代	散文	今昔	軍記	擬古	隨筆・ 説話	日記・ 紀行	狂言	キリ	俳諧
307	まるし	丸	ク		1	2	1										○		○
308	みぐるし	見苦	シク				1										○		
309	みじかし	短	ク		9	7	7	○	○								○		○
310	みづくさし	水	ク		4	2	1										○		○
311	みともなし		ク	○	1	1	1												
312	むごし	慘・酷	ク		2	3	10										○		○
313	むさくろし		シク	○	1														
314	むさし	穢	ク		1												○		○
315	むしあつし	蒸暑	ク	○			1												
316	むぞし		ク	○															
317	むつかし	難	シク		7	10	12												
318	むつまし	親・睦	シク		1		4	○	○								○		○
319	むなし	空・虚	シク				3	○	○								○		○
320	めづらし	珍	シク		6	5	5	○									○		○
321	めでたし	愛	ク		3	7	15										○		○
322	めばやし	目早	ク	○		1													
323	ものおもほし	物思	シク		1														
324	ものさびし	物寂	シク		1														
325	ものすごし	物凄	ク			1													
326	ものよし	物吉	ク	○		1													
327	もろし	脆	ク		2			○									○		○
328	やかまし	喧	シク		15	15	25										○		○
329	やさし	恥・優	シク		2	3	2	○									○		○
330	やすし	安・易	ク		3	12	9	○	○								○		○
331	やにこし		ク	○			1												
332	やわらかし	柔	ク	○		2													
333	ゆかし		シク		1	1	1										○		○
334	よくどし	欲	シク			1											○		○
335	よし	良・好・善	ク		233	219	397	○	○								○		○
336	よしなし	由無	ク		1	4											○		○
337	よりどころなし	拠所無	ク		1	1													
338	よろこばし	喜・悦	シク		1												○		○
339	よろし	宜	シク		14	22	15	○	○								○		○
340	よわし	弱	ク		2		2	○	○								○		○

No.	見出し語	漢字	活用	新出	大坂	京都	江戸	上代	調点	八代	散文	今昔	軍記	擬古	隨筆・ 説話	日記・ 紀行	狂言	キリ	俳諧
341	ろんなし	無論	ク			7					○	○							
342	わかし	若	ク		5	5	31	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
343	わるし	悪	ク		60	78	82				○		○	○	○		○	○	
344	をかし	可笑・可笑	シク		33	20	8				○	○	○	○	○	○	○	○	○
345	をさなし	幼	ク				1				○	○	○	○	○	○	○	○	○
346	をし	惜・愛	シク		2	2	4	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
347	をりよし	折良	ク				1				○				○				
348	をし	雄雄	シク			1		○			○								